

【社会における合意形成】

特別区・H22年過去問

都市生活を送るためには、道路、清掃工場、下水処理場などの公共的な生活基盤施設は不可欠です。しかし、このような施設の設置は、近隣住民からの反対を受けることがあります。こうした状況の中で、魅力的なまちをつくっていくために、都市生活を支える基盤となる施設のあり方を述べた上で、社会における合意形成について、あなたの考えを論じなさい。

【答案例】

区民が都市生活を送っていく上で、道路、清掃工場、下水処理場などの公的な施設は不可欠な存在である。一方で、これらの施設は、その建設過程や設置後において、騒音や悪臭などを伴う場合があり、近隣住民から苦情や反対を受けることも少なくない。そのため、これらの公共施設のあり方としては、行政が一方的にその設置を決定するのではなく、『近隣住民の理解の下、区民の合意の上で存在すること』が望ましいと考える。では、都市生活を支える基盤となる施設を建設するにあたり、社会における合意形成を得るため、特別区はどのように取り組んでいくべきか。以下で論じていく。

第一に、施設に関する情報提供を徹底していくことが重要である。公的施設を建設するにあたり、その意義や重要性が不透明であると、騒音などのデメリット部分が強調され易く、住民からの反対を受ける可能性が高まる。このことは、現代のようなインターネット社会においては、より顕著になるといえる。そのため、区としては、住民に対し、施設の意義をわかりやすく丁寧に周知していく必要がある。具体的には、住民説明会を開催し、施設の意義やその決定過程を説明する事や、区のHPや広報などに、上記情報を掲載していくことが挙げられる。さらには、ツイッターやSNSなど、即時性のあるITツールを活用し、工事の進捗状況や、その日の騒音の大きさ等を随時発信していくことも重要である。このように、情報発信を丁寧に行っていくことで、住民の不安を解消し、住民の理解を得ていくことが重要である。

第二に、住民参加の促進が重要である。社会的な合意を形成するためには、従来のような、行政が一方的に決定していくやり方ではなく、行政と住民が協議の上で決定・推進していくこと求められる。そのため、公共施設を新設する場合においては、構想段階から住民が参加できる体制を整備することが重要である。その際、従来からの公聴会に加え、ICTを用いた意見交換会など、多様な

区民が、時間の制約を受けずに意見を述べられる機会を提供することが重要である。このように、構想段階から参加することで、当該施設への関心が高まり、区民の理解が深まることが考えられる。また、区民の声を反映させることで、多くの区民の立場に配慮がなされ、より地域に調和した施設が実現できると思われる。但し、こうした住民参加が進むと、行政と住民の間、あるいは住民同士の間で利害が一致せず、計画がまとまりにくくなる場面が多くなることも考えられる。そこで、特別区の職員は、中立・公平な視点を持ち、住民目線で物事を考え、粘り強く対話を継続していくことが求められる。

魅力的なまちを構築していくためには、公共施設の存在は不可欠である。特別区は、上記の取り組みを粘り強く行い、これらの施設が住民に理解されて存在できるよう、住民の合意形成に力を入れていかなければならない。

以上